

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 106 ~ 107 円台を中心にもみ合いか

[5月18日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月11日~5月15日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	106.65	107.77(11)	106.40(11)	107.18	+0.53
ユーロ・ドル	1.0826	1.0896(13)	1.0775(14)	1.0799	-0.0040

=====

国内株・金利 / 米国株・金利				
	終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	20,037.47	-141.62	日本10年債利回り	0.003 +0.004
ダウ平均株価	23,625.34	-705.98	米10年債利回り	0.622 -0.061

=====

<来週の主要経済統計等>

- 18日 英5月ライトムーブ住宅価格
日本第1四半期国内総生産 (GDP) 1次速報
- 19日 NZ第1四半期生産者物価指数
日本3月鉱工業生産指数確報値
英4月雇用統計
独5月ZEW景況感指数
米4月住宅着工・建築許可件数
- 20日 日本3月機械受注高
独4月生産者物価指数
ユーロ圏3月経常収支
英4月消費者物価指数、英4月生産者物価指数、英4月小売物価指数
ユーロ圏4月消費者物価指数確報値
米MBA住宅ローン申請件数
カナダ4月消費者物価指数、カナダ3月卸売売上高
米連邦公開市場委員会 (FOMC、4月28~29日) 議事録
- 21日 日本4月貿易収支
英4月製造業PMI速報値
米5月フィラデルフィア連銀景況指数
米新規失業保険申請件数
米4月中古住宅販売件数、米4月景気先行指数
- 22日 NZ第1四半期小売売上高
日本4月消費者物価指数
英4月小売売上高
独4月製造業PMI速報値、独4月非製造業PMI速報値
ユーロ圏4月製造業PMI速報値、ユーロ圏4月非製造業PMI速報値
カナダ3月小売売上高

【前回のレビュー】米国などでの経済活動再開の兆しは明るい材料ではあるものの、米経済指標の悪化が株安やドル安につながりそう。いったん落ち着きを見せたものの、米中対立への警戒感もくすぶり続け、ドル円は106円台を中心に上値の重い展開となりそうとした。

【パウエル議長はマイナス金利を否定】

13日に米連邦準備制度理事会 (FRB) のパウエル議長はオンライン講演で、「我々が期待するより数か月長く回復にかかる可能性がある」と言及した。一方で、注目されたマイナス金利に関しては「現時点で検討の対象ではない」と否定した。

また、パウエル議長は「経済を守るため追加の政策が必要になる可能性」「ウイルスで長期の経済的打撃への懸念が高まった」「見通しは極めて不透明、下向きのリスクは大きい」「失業率は来月くらいにピークを打つ」「ウイルス感染が制御可能になれば経済は回復」「企業への融資のためにFRBはリスクをとる意向」などと述べた。景気を支援するために追加の支援措置の必要性を指摘した。

14日に発表された米新規失業保険申請件数は298.1万件となった。過去8週間で364.9万件にも上る未曾有の失業増となっている。ピーク時の680万件と比べて件数は減少傾向にあるものの、依然として平時の1.0倍前後の大幅な増加となっている。

ドル円は11日に米長期金利の上昇などを背景に107.70円台まで上昇を見せた。ただ、その後は新型コロナウイルスの感染拡大の第2波への警戒感などもあり、円買いの動きとなって、ドル円は107円割れまで軟化した。ドル円だけでなく、ユーロ円、ポンド円、豪ドル円などクロス円全般に上値の重い動きとなった。

14日にトランプ米大統領が「今は強いドルを持つのに素晴らしい時期」と語ったことでドル買いが強まり、106円台に下落していたドル円も買いが強まった。その後15日にかけてドル円は107円台半ばまで上昇しており、クロス円も全般に戻り歩調を見せた。

各国で都市封鎖（ロックダウン）の緩和や経済活動再開が進む中、感染拡大の第2波が警戒されている。国内でも14日に39の県で緊急事態宣言が解除された。経済活動再開への期待感は広がるものの、感染拡大が再び広がることへの警戒感も根強い。

14日にはトランプ米大統領が中国を非難しており、米中対立への警戒感も熾り続ける。米中協議の合意の履行を巡る不満などを背景にトランプ大統領は、テレビインタビューで「習主席といまは話をしたくない」と述べたうえで、「中国と完全に断交することが可能か、断交した場合に何が起きるか」思案しているなどと述べた。

今後も米国を中心に経済指標がどの程度の悪化を見せているのかが注目ポイントとなりそう。ドル円は108円を回復するには上値は重く、105円へ向かうほどの弱さもない。このため106～107円台を中心とするもみ合いが見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、105.50～108.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、18日に日本第1四半期国内総生産（GDP）1次速報、19日に日本3月鉱工業生産指数確報値、米4月住宅着工・建築許可件数、20日に日本3月機械受注高、米MBA住宅ローン申請件数、米連邦公開市場委員会（FOMC、4月28～29日）議事録、21日に日本4月貿易収支、米5月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数、米4月中古住宅販売件数、米4月景気先行指数、22日に日本4月消費者物価指数などがある。

【ユーロドルはレンジ相場か】

ユーロドルは1.07台後半～1.08台後半の狭いレンジ内でのみみ合いが続いている。13日にパウエル議長が景気の一段の下振れや追加措置に言及すると、米長期金利が低下して、ユーロドルは1.0896まで上昇した。ただ、1.09台に乗せるだけの強さはなかった。その後はパウエル議長がマイナス金利を否定したことや米株安を受けてのリスク回避のドル買いの動きから1.08台前半まで下落した。

14日には1.08ドルを割り込むなど軟調な動きとなったものの、大きな崩れはなかった。ユーロ圏は一部の国や地域でロックダウンの解除が始まっているが、経済活動の再開や拡大は緩やかなものとなりそうだ。ユーロ圏を中心とする経済指標の弱さは圧迫要因となる。ただ、1.07台では底堅い動きを見せており、ユーロドルは明確な方向性が見えにくい動きとなって、レンジ相場で推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0650～1.0850ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、18日に英5月ライトムーブ住宅価格、1

9日にNZ第1四半期生産者物価指数、英4月雇用統計、独5月ZEW景況感指数、20日に独4月生産者物価指数、ユーロ圏3月経常収支、英4月消費者物価指数、英4月生産者物価指数、英4月小売物価指数、ユーロ圏4月消費者物価指数確報値、カナダ4月消費者物価指数、カナダ3月卸売売上高、21日に英4月製造業PMI速報値、22日にNZ第1四半期小売売上高、英4月小売売上高、独4月製造業PMI速報値、独4月非製造業PMI速報値、ユーロ圏4月製造業PMI速報値、ユーロ圏4月非製造業PMI速報値、カナダ3月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断をお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。